京都大学寄宿舎吉田寮食堂建築物の調査実測による その京都大学内で最古の建築物である実証
― 京大最古の建築施設 ―

七灯社建築研究所
山根 芳洋

Architectural Inspection to Ascertain Kyoto University Yoshida Dormitory Dining Hall as the Oldest Existing Architecture Constructed by Kyoto University:
The Oldest Architecture of Kyoto University

SEVEN LAMPS ARCHITECTURE INSTITUTE
Yamane Yoshihiro

Apr.18.2012

Although the Former Physics Laboratory, currently the International Seminar House, has been thought to be the oldest existing architecture of Kyoto University, research findings show that what is now the Kyoto University Yoshida Dormitory Dining Hall was previously located in the Main Campus. Thus the Dining Hall building is the oldest existing architecture of Kyoto University.

This paper presents research findings based on documentations of existing sources, surveys of inspections, and actual measurements conducted in February 2012 that indicate the historical value of the Dining Hall.

目 次

はじめに

Ⅰ. 京都大学の歴史と京都大学前身創設時の諸施設および京都大学寄宿舎吉田寮の概要

Ⅱ. 京都大学前身食堂の歴史資料と京都大学寄宿舎吉田寮食堂の実測およびその図書による検証

Ⅲ. 京都大学寄宿舎吉田寮食堂の調査実測による構造より見た検証

Ⅳ. 京都大学寄宿舎吉田寮食堂の調査発見による検証

Ⅴ.結論

Ⅵ.おわりに

Ⅶ.備考：復元　京都大学前身創設時食堂図書

Ⅷ.備考：次論文の概要

Ⅸ. 参考文献

はじめに

京都大学における現存での建築遺構として最古とされているのは、2012 年現在において吉田本部構内の旧物理学実験場である(a)が、しかし、それに先立つ竣工日をもつ建築物が現在も存在していることを、2012 年 2 月に実施した京都大学寄宿舎吉田寮食堂建築物の調査と実測により発見した。この京都大学寄宿舎吉田寮食堂建築物が、現存する京都大学内での最古の建築物であることの実証を、過去に書表された関係資料と今回の調査実測資料を参考・参照し本稿の下章に記し報告する。日本及び文部科学省また京都大学の文化と歴史・学術資産の向上、また京都大学の施設計画ならびに施設運用の一助となる新たな知見を提示する。

Ⅰ. 京都大学の歴史と京都大学前身創設時の諸施設および京都大学寄宿舎吉田寮の概要

実証内容の理解を助ける為に、京都大学の歴史と京都大学前身創設時の諸施設および京都大学寄宿舎吉田寮の概要を既出書より参照引用し説明すると、京都大学（以下京大と略称）の京都市左京区吉田での歴史は、第三高等中学校（以下三高と略称）の敷地選定のための文省森有礼による愛宕郡吉田村（当時の地名）視察(a)とその後の 1886 年 12 月 6 日（明治 19 年）に文部省より設置区域が達せられた時より始まる(a)。1887 年 6 月 1 日（明治 20 年）に起工し(c)、1887 年 6 月（明治 20 年）には文部省の四等技師久留正道と三等技師山口半六が京都に出張し、7 月にかけて敷地の測量調査を行なっている。(a)そして、新校舎と諸施設（図 1 及び図 2）は山口半六と久留正道の設計により(b)山本治兵衛の現場管理の下(b)、1889 年（明治 22 年）7 月に本校舎・寄宿舎および便所・食堂・厨房・浴室が竣工。8 月に雨天体操場・事務所・教師館が竣工。9 月に科学実験場が竣工。9 月 11 日開校式が行われ、遅れて 11 月に物理学実験場が竣工した（a)。1893 年（明治 26 年）には敷地の南辺中央より少し西よりに正門が開けられた。正門、本校、雨天体操場、寄宿舎が南北軸線上約 4 度西にずれた線上にほぼ正確に並び、さらに水路を越えたところに食堂、賄所および浴室が配置されている。(a)また、その後 1897 年 6 月 18 日（明治 30 年）勅令第 209 号をもって京大（京都帝国大学）が設立されたがその諸施設は三高の諸施設そのものを引き継いだ(a)施設内容である。

京都大学寄宿舎吉田寮（以下吉田寮と略称）は 1912 年（明治 45 年）本部構内の三高時代より続く 1889 年 7 月竣工の寄宿舎および便所・食堂・賄所・浴室（写真 1 及び写真 2）の建て替えにより(a)本部構内敷地より約 300m南下した敷地（吉田近衛町 69 番地）へ場所を移り、寄宿舎と食堂および賄所・浴室は共に山本治兵衛と永瀬狂三の設計により(a)(d)1913 年（大正 2 年）秋に新舎（写真 3 及び図 3）として寄宿寮および便所・食堂・賄所・浴室施設を持つ吉田寮の開舎となる。(a)

以上が京都大学百年史および既出書による説明であり、吉田寮食堂は 1913 年に山本治兵衛と永瀬狂三の設計(a)により新築されたことになっている。

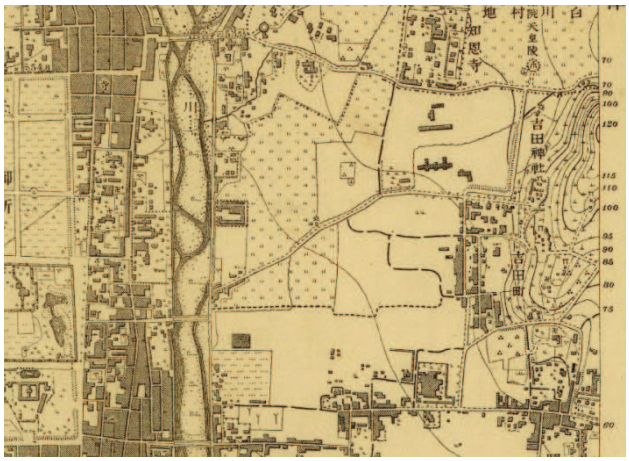


図 1　内容年代 1889 (明治 22 年)成立年代 1892 (e)

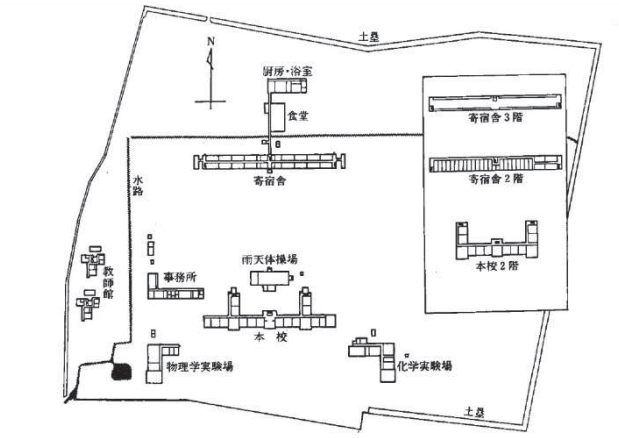


図２　1889 年(明治 22 年) 三高 配置図兼平面図(f)

写真１　寄宿舎　明治 45 年２月１０日撮影　(g)

写真２　京都帝国大学 寄宿舎と食堂 1907 年頃(m)

写真３　吉田寮正面外観　（a）

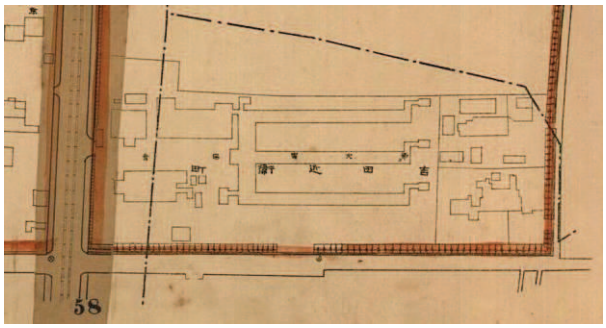


図３吉田寮配置図 建築物内容年代 1925 年(大正 14 年)以前と昭和初期による東大路通(1928 年開通)の書込み(h)

Ⅱ．京都大学前身寄宿舎食堂の歴史資料と京都大学寄宿舎吉田寮食堂の実測およびその図書による検証

京大前身創設時の食堂は木造平屋建(i)構造であり（写真２中央)、図２及び拡大図（図４）の主要建築軸線上の寄宿舎北側に位置し、寄宿舎正面中心線より成る渡り廊下によって接続され一群となって構成されていた。

この軸線は、京大吉田本部構内建築計画の基準軸線として現在に受け継がれ、京大に於いて最も重要な象徴である。

この軸線上の渡り廊下を挟んで左右に大小の空間を形成している個所が食堂である（図４)。大きな空間が食堂機能部分で、小さな空間が洗面所機能部分という構成である。

吉田寮食堂は図３の中央左上に図示され、写真３

の左にみえる木造平屋建および写真 7 の建築物である。また 2012 年 2 月 10 日に、この食堂の調査を行い作成した実測平面図が下示の図 5 である（上部が北）。西側にレンガ構造による防火壁を有し、それより東西 X 軸 14.5 間、南北 Y 軸 10 間の平面領域で片側寄棟屋根を基本にした外観の建築である。

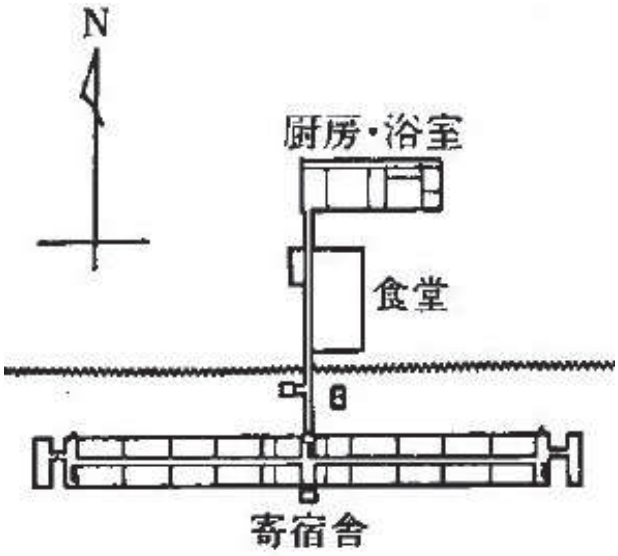


図 4　1889 年(明治 22 年)京大前身創設時食堂平面図　(a)

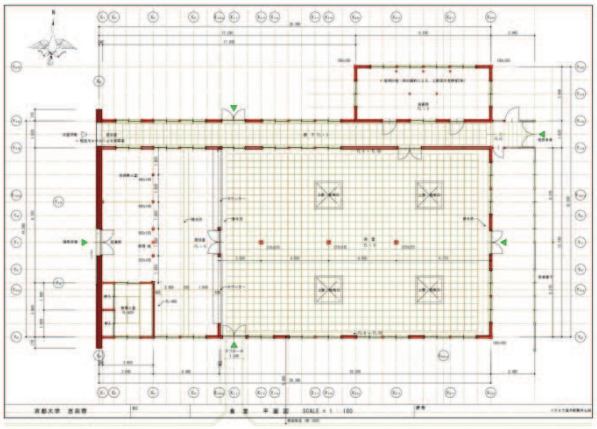


図 5　吉田寮食堂実測平面図（末尾に拡大図の添付あり）

ここで、図 4 の食堂部分と図 5 を比較すればその矩形と構成の共通を見ることが出きよう。そこで、図 5 に図 4 を 90 度回転させ、重ねた合成平面図書を図 6 に示す。

西側に約半間の伸びを見いだせるが、空間構成上の矩形と大きさは図 4 京大前身創設時の食堂と図 5 現吉田寮食堂はほぼ一致する。

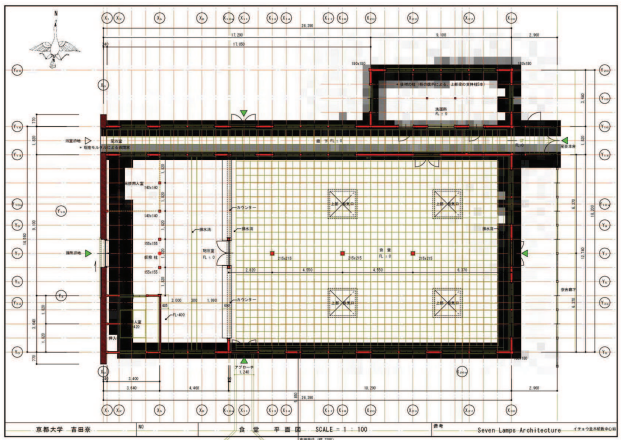


図 6　　図 4 と図 5 の合成

Ⅲ. 京都大学寄宿舎吉田寮食堂の調査実測による構造より見た検証

吉田寮食堂の屋根裏調査により作成した実測小屋梁伏図（図 7）から読み取れることは西側半間が後付けによる構造に成っていることである。それは構造上の中心である中央の大梁を見れば明らかである。(図 7 の記号ア）又、実測軸組図 (図 8) の X5 通り軸組（図 7,8 記号イ）と X26a（図 7,8 記号ウ）のみに現れる小屋組み形態は寄棟屋根を構成させるものであり、X5 通り軸組（図 7,8 記号イ）のその位置と高さより、現状西側は西辺より 1007.5 ㎜が改造され、455 ㎜（215 ㎜+240 ㎜）分が付加されたことが判り、西側もかつては寄棟の構造物であったことが解る。また主要構造の材質の均一性よりそれらが寄せ集めの古材ではないことは目視により誰の目にも明らかである。その他の主要構造材料の整合性のある構造形態と材料組成より X5 通りのみ不合理な寄せ集め古材は利用していないと判断できる。

以上より、上記Ⅱにおいての西側へ約半間の伸びを示すことより京大前身創設時の食堂と吉田寮食堂の構造体は完全に一致することになる。

また、その構造形態より外観は両寄棟作りで写真 2 に見られる食堂建築物とも一致する。

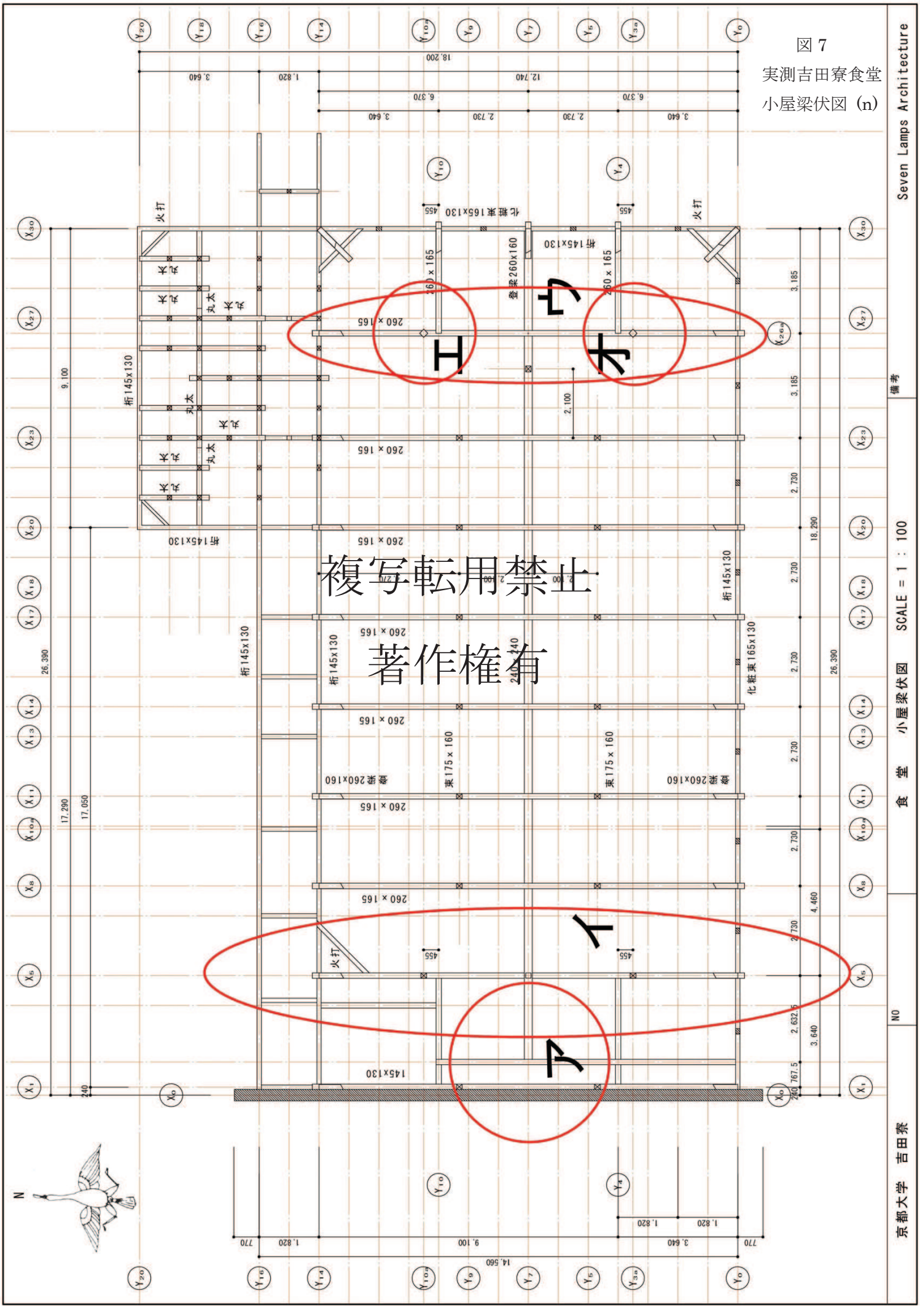
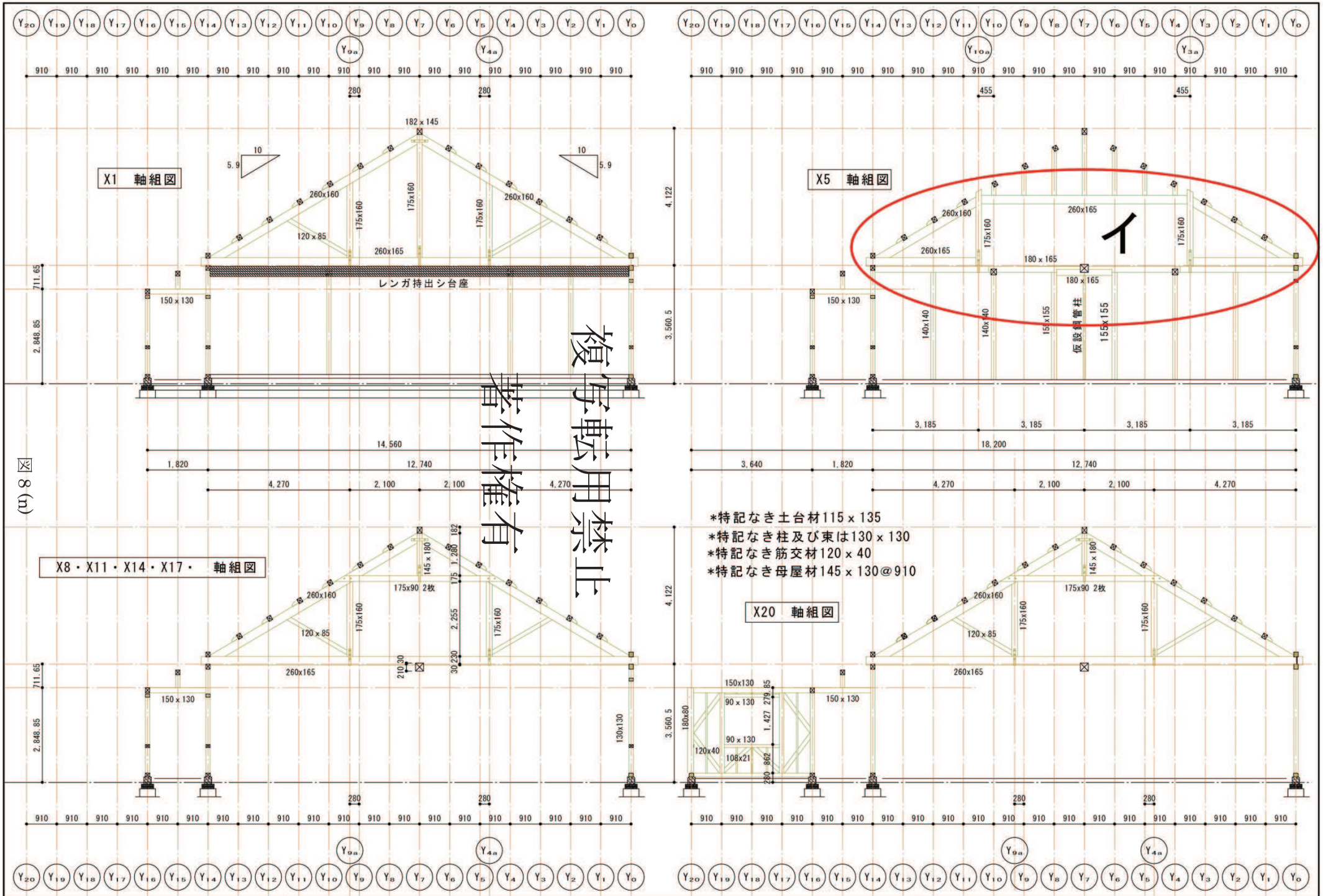


図 7
実測吉田寮食堂
小屋梁伏図（n）



京都大学 吉田寮	NO	食 堂 X1-20 軸組図 SCALE = 1 : 100	備考 Seven Lamps Architecture

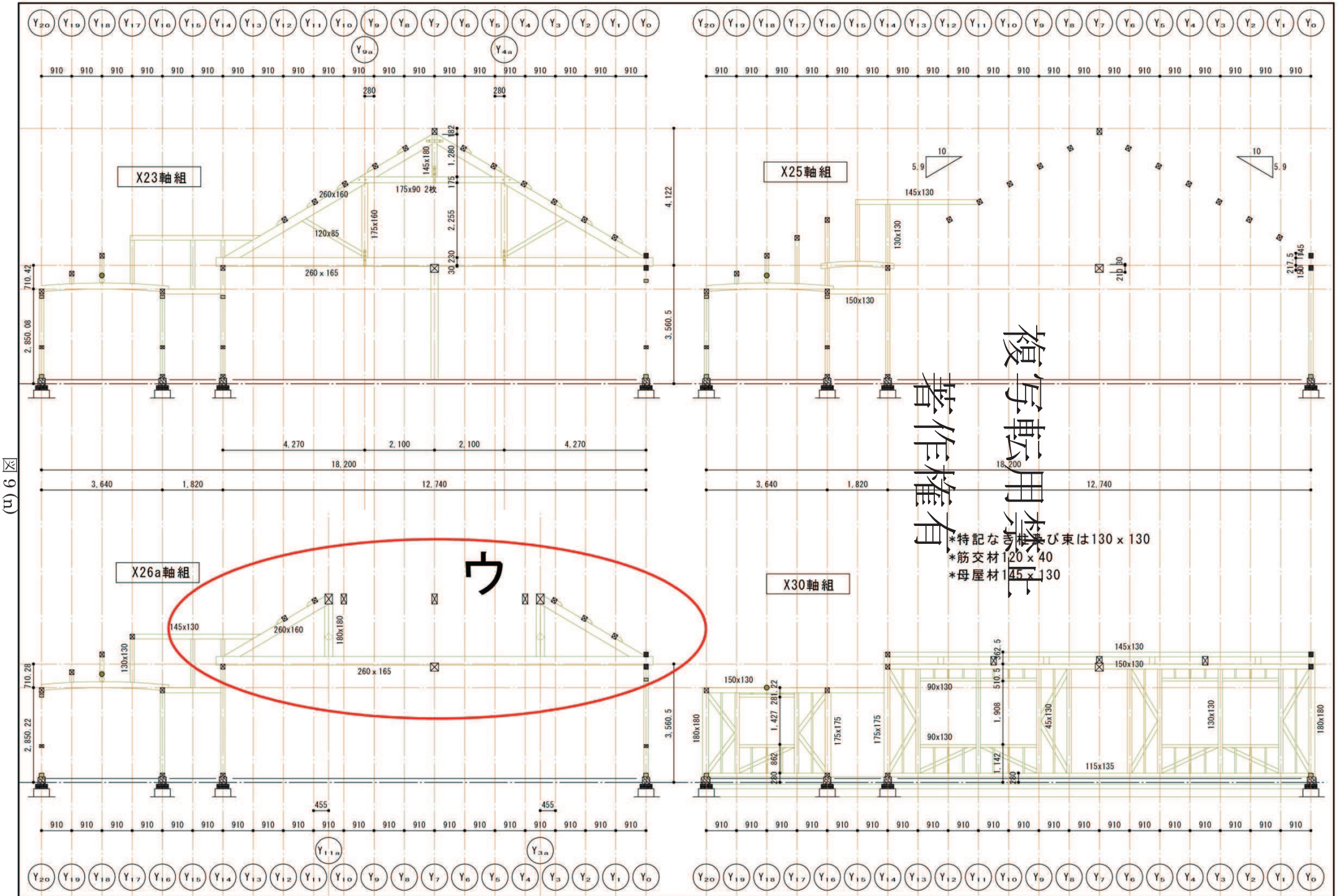

X23軸組
X25軸組
X26a軸組
X30軸組
ウ
*特記なき柱及び束は130 x 130
*筋交材120 x 40
*母屋材145 x 130
複写転用禁止
著作権有
京都大学　吉田寮
NO
2食　堂　X23-30 軸組図　SCALE = 1 : 100
備考
Seven Lamps Architecture

図 9 (1)

Ⅳ. 京都大学寄宿舎吉田寮食堂の調査発見による検証

発見ということになると上記Ⅲの X5 軸組形態もそうであろうが、ここでは上記Ⅱ及びⅢを補強する物として屋根裏調査の際見出した小屋組隅束柱にあった墨書きである（写真 5・6)。
写真 5 の部材位置は図 7 の X26aY11a（記号エ）にあり現吉田寮食堂の北東位置である。その墨書き内容は「西北隅」である。又、写真 6 の部材位置は図 7 の X26aY3a（記号オ）にあり現吉田寮食堂の東南位置である。その墨書き内容は「東北隅」である。
この事より吉田寮食堂の建築物はもともと逆時計回りに 90 度回転させた状態で存在していた事が解る。そして、それは京大前身創設時食堂の方位位置と一致する。
また、この事実は吉田寮食堂が京大前身創設時食堂の主要部材をそのままに、現在の位置に移築されたことを示している。

写真 5

写真 6

Ⅴ.結論

上記Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳより吉田寮食堂（写真 7）は山口半六と久留正道の設計により、山本治兵衛の現場管理のもと、1889 年（明治 22 年）7 月に竣工した京都大学前身創設時の食堂であり、同山本治兵衛により 1913 年（大正 2 年）に吉田近衛町へ移築され現在に至っている。
それは一部改造を加えられてはいるが、全体としては非常によく残され、存在を保持している。

現在、京大での最古の遺構建築物とされ象徴的に取り扱われている旧物理学実験所は、開校式の 9 月 11 日に遅れる 1889 年（明治 22 年）11 月の竣工であり、同年 7 月竣工の吉田寮食堂は京大最古の建築物である。

写真 7　吉田寮食堂南面　2012 年 2 月撮影

Ⅵ.おわりに

京都大学百年史第 8 章より引用「物理学実験場は、本学において現存する唯一の第三高等中学校の遺構で、山口半六と久留正道が設計し、堅実な構成と意匠を見せている。本学の建築では最も古く、また焼失した本校と同一の意匠をもっているので、第三高等中学校のイメージを伝える建築といってよい。本学の起源を示す建物として歴史的価値は高く、また文化史的、建築的価値もきわめて高い。」(a)

この認識より、吉田寮食堂も同様に、堅実な構成と意匠をみせて、京大において最も古く、また焼失した本校と同一の意匠をもっている。また、食堂は最も重要な中央軸線上にあつた重要施設であり（この軸線計画については私の別紙論文(j)にて示しているので参照していただきたい）、京大の起源を最もよく示している建築と言へ、歴史的価値は高く、また文化史的、建築的価値もきわめて高い重要建築物である。この認識を共有するならば、吉田寮食堂は国の重要文化財となるであろう。

普通、食堂は人が集い、食事を食べる場であるが、この食堂は幕末(j)・明治・大正・昭和・平成の日本の歴史と京大の歴史・文化と人の思いを食べて現在に在る。

今、吉田寮はたいへん不遇な状態におかれている。上記の認識が無かったことに由来するのかは解らないが、個々の人として、また、知の最高学府の最高位において、上記認識を見て理解したならば、必ずや健全に知力を結集し、吉田寮食堂の保全・修復をしていただける筈である。

これに関する動向は、日本及び京都大学の文化水準と知力が表象される出来事となろう。

焚書に等しき行為は無いものと信じる。

京都大学関係各位および関係社会に、京都大学および京都大学寄宿舎吉田寮建築物の歴史また文化の認識に、新たな知見を持って頂くことを希望する。

建築家の責務として本稿を著す。

Ⅶ.備考：復元　京都大学前身創設時食堂

上記の内容と山本治兵衛による食堂図面及び今回の実測調査を総合的に考察した結果の予想復元図を作成した（図 10）。合わせて、今回の実測による現吉田寮食堂の立面図（図 9）を参考に示す。図 9 の渡り廊下部分の形態と意匠は吉田寮舎の寮本館と便所を結ぶ渡り廊下((n)を参照し復元とした。

全体として X 方向が現状より 455 ㎜短くなり、現状の西側屋根形状が寄棟となる。壁面の窓構成は明治中期における建築意匠の潮流と山口半六及び久留正道両氏の意匠傾向を考察し図示を試みた。

その形態は、非常に端正で堅実なものになり、それは、明治 28 年に文部大臣官房會計課より発行された「学校建築圖説明乃設計大要(k)」第一章総説中の「・・・務メテ外観ノ虚飾ヲ去リ質朴堅牢ニシテ・・・」の文言を想起させる。上記の書は久留正道と三島通良の尽力(l)による書であるから当然かもしれぬが、発行年にさかのぼる竣工年の京

大前身創設時食堂（吉田寮食堂）は文部省の日本における学校建築の典型をつくる作業過程の中で生まれた結晶であるといえる。

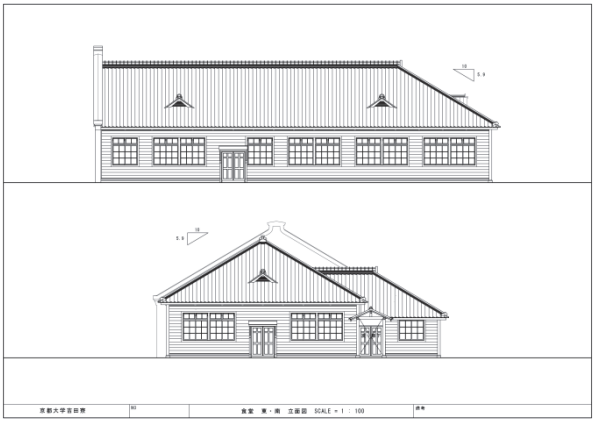


図 9　吉田寮食堂実測南面･東面立面図

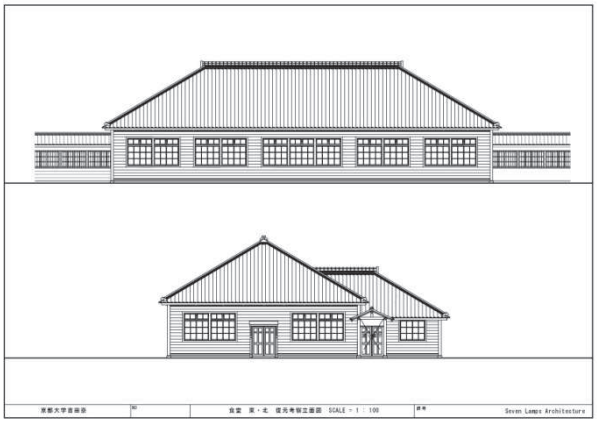


図 10　京大前身創設時食堂復元予想東面･北面立面図(末尾に拡大図の添付)(n)

Ⅷ.備考：次論文の概要

京大吉田寮便所建築物の「京大最古の建築物であることの実測図を交えての考察」（仮称）では、その建築物が創設時京大寄宿舎便所を移築したものであることを、「吉田寮舎の中に生きづく創設時京大寄宿舎」（仮称）では、創設時京大寄宿舎が解体されたときの材料部材が吉田寮舎建築の中に生かされていることを考察する文書を執筆中である。

Ⅸ.参考文献

(a) 京都大学百年史編集委員会 1997-2001「京都大学百年史」

(b)宮本雅明 昭和 50 年 「京大構内に於ける明治期の建築について」

(c) 日出新聞　明治 22 年 8 月 1 日

(d) 山本治兵衛　「京都帝国大学寄宿舎設計図」原図写真

(e) 陸地測量部 1892「京都 15 号 假製二万分一」国際日本文化研究センター蔵

(f) 京大建築史研「京都大学建築八十年のあゆみ」

(g) 京都帝国大学寄宿舎史編纂委員会　1912「京都帝国大学寄宿舎史」

(h) 京都市明細図 NE59　大正－昭和初期

(ｉ)宮本雅明 昭和 56 年 6 月 「明治中期の高等中学校にみる高等教育施設の成立過程」

(ｊ)山根芳洋 2012「京都大学の軸線計画と京都加茂川左岸地区の都市計画-幕末の志士たちの思い-」

(k) 文部大臣官房會計課 明治 28 年 「学校建築圖説明乃設計大要」

(l)佐藤晋平 東京大学教育学研究科教育行政学論叢 2009 年「明治期における教育法・ノルム・衛生学」

(m)京都大学文書館所蔵写真 012-00062　1907 年頃

(n)七灯社建築研究所　2011－2012 吉田寮調査実測図